

令和6年度(第22回) 江戸川区青少年の翼

高校2年 鷺見 拓維

1. 活動時期 2024.6.30～2024.9.8

2. 参加のきっかけ

「世界」を直接体験したいと思って留学プログラムを探していた中、学校からの案内でこの課外活動を知り、参加する事にしました。



3. 活動内容

「青少年の翼」は、江戸川区在住の中高校生向けの海外派遣事業です。「青少年の翼基金」によって運営されており、平成15年から始まりました。

オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ合衆国の中から1カ国を選んで応募し、選考の末、各国20名が派遣されます。私は海外での教育について学びたかったので、教育水準が高いと言われるオーストラリアを選びました。まず事前研修で派遣先での出し物や発表の準備をし、そして現地ではホームステイや学校体験を行い、帰国後の事後研修では、日本で行う帰国報告会に向けた準備をします。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

参加する前は、一切日本語がない現地での生活を乗り切る事が出来るか不安がありました。しかし、実際に現地に行ってみると、言いたい事が伝わらない時に無意識のうちにジェスチャーなどを用いて必死に伝えようとする事ができ、その結果伝わったという事が多くありました。これらを通して、言葉が上手く通じ合わない中では、常に積極的にコミュニケーションを取ろうとする意欲が大切なのだと気が付きました。また、世界中の人と繋がる事や、将来海外で働くといった事にも、参加する前以上に興味が湧きました。

②活動中の面白かったポイント

私のスクールバディはスポーツが好きだったため、現地の学校では私も休み時間にずっとスポーツをしていました。最初は上手くみんなとコミュニケーションが取れなかったのですが、スポーツを通して多くの友人を作り、共に楽しむ事ができ、人と繋がる手段は言語だけではないのだという事を実感しました。

また、オーストラリアは多民族国家なので、現地の学校では様々な背景を持った生徒と交流する事ができ、新たな価値観を得られた気がします。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

私は海外を訪れてみて多くの事を学べました。そしてそれらは、日本にいただけでは決して得られないようなものでした。海外に行く事に対する不安を理由に参加をやめなくて良かったなと思っています。また、学校も学年も異なるメンバーで活動する事になる青少年の翼では、学校として行くプログラムとは違った経験があるはずです。学校が異なる相手と関わると様々なインスピレーションを受ける事が出来るし、学年が違えば自分には無い発想が出てくる事もあります。中高生のうちに、この「青少年の翼」でぜひ留学にチャレンジして欲しいと思います。

